

授業科目名称：調剤Ⅱ（実践的教育科目）

授業コード：44018

授業科目英文名称：Dispensing Pharmacy Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
大磯 茂*、室 高広*、神田 紘介*、大久保 伸哉*、末廣 真理恵*、中島 健輔*、波多江 日成子（実務経験のある教員）			
展開方法	講義・演習・実習		
ナンバリング	N4F412		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	- 代表的な疾患における注意すべき生活指導項目を列挙できる。 - 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などを評価できる。 - 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、薬局製剤・漢方製剤などについて説明できる。 - 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。 - 感染予防の基本的考え方とその方法を説明できる。 - 無菌操作の原理を理解し、基本的な無菌操作を実施できる。 - 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。	筆記試験 実技試験	40% 40%
情報収集、分析力	・医薬品情報を適切に収集、加工、提供できる。	課題レポート	10%
コミュニケーション力	- グループ討議により作成したプロダクトを適切に発表できる。 - 他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。	観察記録	評価方法参照
協働・課題解決力	・提示された症例の問題点を指摘し、その解決策をディスカッションにより提案できる。	課題レポート	10%
多様性理解力	・患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる。	観察記録	評価方法参照
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	卒業後、医療、保健活動に参画できるようになるために、薬局および病院における実務実習に先立って、院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理における感染予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。
アクティブラーニングの類型	①②④⑪
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	- 筆記試験と実技試験から成る随時試験の結果、レポート、小グループディスカッション（SGD）およびその発表により評価する。 - 筆記試験は、講義、演習・SGDおよび実習で行うすべての項目を出題範囲とする。 - 実技試験は、衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションのシミュレーション、基本的な無菌操作およびケミカルハザード回避手技のうち、指定する1つ以上の項目の手技の習得度を評価する。 - レポートは、SGD実施日から1週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。指定条件を満たさない場合並びに誤字・脱字は、減点の対象とする。 - レポートおよびポートフォリオ課題のフィードバックをポートフォリオで行う。 - グループ討議・プレゼンテーション・実習における評価は観察記録を用いる。観察記録は、指示事項の遵守度、身だしなみ、授業態度等を評価する。観察記録による態度等の評価は0～1.0の評価点に換算し、他の項目の評価点の合計に態度等の評価点をかけたものを最終の総合評価とする。
授業概要	病院または薬局における薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を講義、演習・SGD及び実習に活かし、6月から7月にかけて、講義、演習・SGD、実習が一体化した形式で授業を行う。必要に応じてプリントを配布する。SGD後にレポート提出を課す。実習については、事前に実習書を配布する。また、理解を深めるために、ポートフォリオに演習問題を出題する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは112.5分、演習として行うものは45分、実習として行うものは45分とする。
教科書・参考書・指定図書	教科書①：実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店） 教科書②：グラフィックガイド薬剤師の技能 第2版 ー理論まると実践へー（京都廣川書店） 参考書： ・調剤指針第十四改訂（薬事日報社） ・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人） ・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人） ・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人） 指定図書： ・実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店） ・グラフィックガイド薬剤師の技能 第2版 ー理論まると実践へー（京都廣川書店）

授業外における学修及び学生に期待すること	医薬品が有効かつ安全に適用されるための院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理、患者の栄養状態・電解質の過不足の評価に関する知識、技能、態度を修得し、病院・薬局における実務実習につなげて欲しい。また、事前学習は実務実習前の準備学習であり、薬剤師としてのプロフェッショナリズムの観点からの態度評価も重要視する。実習中における行動やふるまいなどに注意して受講してほしい。					
授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号	担当教員
	1	患者・来局者対応	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目（講義）	教科書①②の予習、配布プリントの復習	948	中島
	2	臨床における心構え	患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上と薬剤師の積極的な貢献（演習・SGD）	教科書①②の予習、配布プリントの復習	890	大磯・室・神田・大久保・末廣・中島
	3	医薬品の供給と管理（1）	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、薬局製剤・漢方製剤（講義）	教科書①②の予習、配布プリントの復習	964、965	大磯
	4	医薬品の供給と管理（2）	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点（講義）	教科書①②の予習、配布プリントの復習	977	大磯
	5	安全管理	感染予防の基本的考え方とその方法（講義）	教科書①②の予習、配布プリントの復習	975	大磯
	6	処方設計と提案（1）	患者の栄養状態や体液量・電解質の過不足の評価（講義・演習）	教科書①②と実習書の該当部の予習	1004	大久保・中島
	7～8	処方せんに基づく医薬品の調製、安全管理 実習（1）	基本的な無菌操作、衛生的な手洗い、スタンダードプリコーション（実習）	教科書①②と実習書の該当部の予習	930、976	担当教員全員
	9～11	処方せんに基づく医薬品の調製 実習（2）、医薬品情報の収集・加工・提供	注射剤無菌調製（実習）、DIニュース等作成（自習課題）	教科書①②と実習書の該当部の予習	930、993、996	室・大久保・末廣
	9～11	処方せんに基づく医薬品の調製 実習（3）、医薬品情報の収集・加工・提供	医薬品の配合変化（実習）、DIニュース等作成（自習課題）	教科書①②と実習書の該当部の予習	939、993、996	大磯・神田
	9～11	医薬品の供給と管理 実習（4）、医薬品情報の収集・加工・提供	薬局製剤・漢方製剤（実習）、DIニュース等作成（自習課題）	教科書①②と実習書の該当部の予習	965、993、996	中島
	12～13	処方せんに基づく医薬品の調製 実習（5）、処方設計と提案（2）	ケミカルハザード回避の基本的な手技（実習）、計算演習問題の解説（講義・演習）	教科書①②と実習書の該当部の予習	931、1004	担当教員全員
	14	随時試験	筆記試験			大磯・大久保・中島
	15	随時試験	実技試験			担当教員全員
		★注意事項	上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。 ※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSB0番号／項目対応表を参照してください。			